「期待の７１回生」

センター試験まで残り…２８４日

諫早高校第３学年通信　No.１

平成３０年４月１０日

（１）「ヒト」という字を漢字で書いてみる。

（書：北川裕子さん）

砂川は、何を言いたい？

「人」という字は「支え合っている」わけではない。人は、誰かに支えられているのである。志実現のため、家族・学校・友人・後輩…多くの人が君たちを支えている。しかし、それだけでは「人」になれない。自分でしっかり立つことも必要。目標を持って、自らを磨き高める姿勢を持つことが大切である。それこそが「諫高道」である。「諫高道」を究め、最高の１年を送るために･･･さあ、やるぞ！

（２）卒業式送辞より（生徒代表：真﨑 輝）

在校生代表「送辞」　真﨑 輝 君（3-7）

皆さま（卒業生）の**「諫高生」としてのプライド**を持ち、何事にも努力を惜しまなかった姿を思い出します。その姿は、**私たちの憧れ**であり、また頼もしい存在でもありました。・・・

職員室前の廊下で学習される姿は、地道な努力の積み重ねの大切さを教えてくれると同時に、私たち下級生との意識の差を痛感させられました。**部活動**では本番でベストのパフォーマンスをするために何度も練習を繰り返し、**数え切れないほどの失敗を乗り越えながら自分を高めて**こられました。・・・

・・・私たち諫高生はよく**「諫高道」**という言葉を使います。私はこれまで先輩方の背中を追いかけてきた中で、私なりの「諫高道」を見つけることができました。先輩方はこれまで自分の目標を叶えるためにひたむきに努力され、**壁にぶつかりながらも決して諦めることなく自分を高めて**こられました。先輩方が地道な努力を怠らず、たゆむことなく前進を続けてこられた姿は、まさに**自らを磨き高めていくという『自啄』の精神**であり、それこそが「諫高道」であると気づきました。この「諫高道」を受け継ぎ、これからの学校生活において**自分の夢の実現ため**に努力していきたいと思います。

（３）卒業式答辞より（生徒代表：樟 育美）

卒業を迎えた今振り返ると、**諫早高校で過ごした三年間は、どれもが自分のこれからの人生の自信につながるような日々だった**と思います。部活動だけでなく、勉強、学校行事に納得いくまで全力で取り組んだ高校三年間に後悔はありません…

…後輩のみなさん、みなさんには今、夢中になっている事、本気で取り組んでいることはありますか。**自分の意志で懸命に一つのことをやってみることは自信につながり、将来の自分を支えてくれる**でしょう。最高の仲間、最高の先生方に囲まれたこの諫早高校で何か一つでもいいから、将来の糧となるものを見つけてください。